

地域から発信

日本青年会議所の取り組み

⑥

ダイイチコンスト ラクシオン

徐 彰宣 専務取締役



「社員だけでなく、家族、子どもたちにも誇りを感じてもらえる会社を創っていききたい」。ダイイチコンストラクション（兵庫県伊丹市、徐雄一社長、072・770・2747）の徐彰宣専務取締役は強調する。同社は公共事業を創りたい」と徐専務

業を中心とした水道工事や一般土木、下水管更生など幅広く手がけ、国のインフラを支え、社会に貢献してきた。重視しているのはディーセント・ワーク（働きがいのある人間らしい仕事）だ。国連の持続可能な開発目標（SDGs）の8番目に掲げられている。社員が働きがいを感じるのは「家族の存在が大き

経営方針に働きがい重視など記載

「質の高い教育をみんなに」と徐専務。ホームページに工事完工までの進捗を掲載し、家族が閲覧できるようにした。

昨春からSDGsへの取り組みを本格化。経営方針に織り込み、名刺には「働きがいも経済成長も」「住み続けられるまちづくり」「つくる責任つかう責任」など目標とする6項目を記載した。「6月の経営指針報告で説明し、社員一人ひとりに理解を深めてもらう」（徐専務）考えた。

同業者の中には人手不足や後継者難で廃業を余儀なくされる会社もある。それだけにダイイチコンストラクションは人材という貴重な財産を大



SDGs目標の8番目「働きがいのある人間らしい仕事」を重視

切にしてきた。近年はカンボジアから技能実習生を受け入れ、日本人社員とコミュニケーションを取りながら「半年程度で十分な戦力に育っている」（同）。

これがSDGsの「質の高い教育をみんなに通じるとみる。

創業60年以上の実績に裏打ちされた技術力や発注者との信頼関係など多くの強みを持つ同社。25年前の阪神・淡路大震災の際には、昼夜問わず工事にいそしんだ。

足元は過去最高益を視野に入れ、「まだまだ将来性がある」（同）と経営は堅調ながらも「水道管工事は市民生活に直結する。未曾有の災害で破損した時に困るのは市民。（そうならないためにも）我々のような企業が持続的に成長していかなければならぬ」（同）と気を引き締め